

牧草・園藝



雪印の子牛育成用飼料の特長と与え方

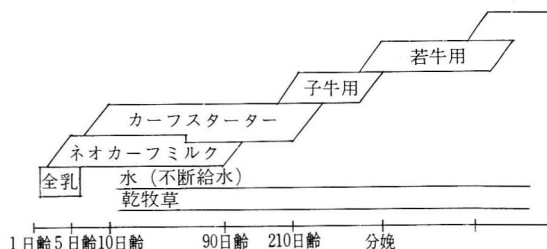
札幌研究農場 松原 守

優秀な子牛を合理的に育成することは、酪農経営の安定化を計る上での不可欠の要素であります。

雪印の子牛育成体系は、牛乳を全く必要としない画期的な全乳代用乳雪印ネオカーフミルクと、早期離乳人工乳雪印カーフスターターを用いて、安全、有利な育成体系で、すぐれた発育と消化能力を有する立派な後継牛がつけられ、経営の伸長が約束されます。

1. 雪印の子牛育成体系

(1) 雪印の子牛育成体系を図に示すと右のようになります。



(2) 育成の規模により2つの体系

雪印の子牛育成体系は少数頭で細部にまで気を配ることのできる場合の自家育成方式と、省力多頭化を狙いとする集団育成方式の2つがあります。

自家育成方式では、代用乳のネオカーフミルクの給与量を子牛の生後日齢によって増減し、人工乳カーフスターターを制限して給与するが、集団育成では代用乳は子牛の生後日齢にかかわらず定量給与し、人工乳カーフスターターも不断給与する省力的な育成方法です。

雪印の育成用飼料の標準給与量

(1月1頭当たり)

週 齢	ネオカーフミルク		カーフスターター		子牛用	若牛用	乾牧草
	自家育成	集団育成	自家育成	集団育成			
1	初乳 4.5ℓ						自由採食
2	400	500	少量	少量			
3	600	500	200	200			
4	500	500	400	400			
5	1,000	500	600	700			
6	800	500	900	1,000			
7	500	500	1,300	1,400			
8			1,800	1,800			
9			2,000	2,500			自由採食
10			2,100	2,500			
11			2,200	2,500			
12			2,300	2,500			
13			2,400	2,500			
4ヵ月齢					1.0 kg ~ 2.0 kg		自由採食
5 ~ 7ヵ月齢					2.0 kg		
8 ~ 分娩						2 ~ 4 kg	
合計(約)	30 kg	20 kg	120 kg	130 kg	50 kg		

